

## 米国私立総合大学看護学部の2007年訪問調査から

著者	IMAI-KISHI Keiko
著者別名	IMAI-KISHI Keiko
雑誌名	日本赤十字九州国際看護大学intramural research report
巻	6
ページ	59-63
発行年	2008-06-30
URL	<a href="http://doi.org/10.15019/00000075">http://doi.org/10.15019/00000075</a>



研究ノート

米国私立総合大学看護学部の 2007 年訪問調査から

Kishi Keiko Imai<sup>1)</sup>

米国看護大学訪問調査の目的は国際学術交流の可能性を検索すること、訪問にともない米国看護大学の現状を把握、記述し、看護の変遷が国の政策にどう影響されているかを理解し、その結果をもとに、日本赤十字九州国際看護大学の看護教育、研究における国際交流について提言をすることである。対象とした看護大学は米国私学総合大学 3 校である。私学は大学の Mission, プログラム、その運営の如何がすぐ大学の特徴、繁栄に影響し、また国の医療政策にも影響されるので米国の先進国の国際活動が成功している大学の現状を調査することで、日本赤十字九州国際看護大学の将来の活動に得るところがあると考え、文献検索の結果、ペンシルバニア大学、ジョンズ ホプキンス大学、エモリー大学の 3 大学を意図的に選択した。これは看護の国際活動を重要視する日本赤十字九州国際看護大学の方針と一致するためである。訪問期間は 2007 年 8 月 4 日から 9 月 6 日までであった (ペンシルバニア大学、2 日間、ジョンズ ホプキンス大学 1 日、エモリー大学 3 日間)。データ収集法は大学教員、および学生のインタビュー、見学、資料収集からなる。3 校とも基本的には修士レベルの看護の臨床能力の強化 (Nurse Practitioner, Clinical Nurse Specialist) 及び博士レベルの大学院の充実という点が共通であった。これは米国の医療政策、即ち、医療出費の削減、ケアの質の確保、健康保険をもたない Minority のための公平な医療ケアの提供などのヘルス需要を看護職者から満たそうとした動きと考えられた。さらに看護界、またヘルスケアシステムの生存競争に勝ち抜くために看護リーダーシップを発揮できる博士号を持つ看護教員と優秀な院生の確保が強調されていることがわかった。過去の歴史、大学を取り巻く環境、地方文化など、それぞれの大学に特徴はあるが、どの大学も国のヘルス政策を看護専攻分野に反映していた。国際交流の体制はどの大学も事務管理職員体制、及び国際交流担当教員、国際交流センターを備えていた。また大学院プログラムには留学生を受け入れていた。

キーワード：米国ヘルス政策、米国看護教育、私立総合大学、Nurse Practitioner、

Clinical Nurse Specialist

米国のヘルス需要とヘルス政策の変化の影響で過去数十年間、米国看護教育の変遷を看護の国際活動の盛んな私立総合大学の看護大学、ペンシルバニア大学、ジョンズ・ホプキンス大学、エモリー大学の事例から調査報告する。

### 1 ベンシルバニア大学

米国ペンシルバニア州では看護の Profession の確立にむけてはじめて博士課程の看護大学院教育が始まったのは 1978 年で、それは私立総合大学のペンシルバニア大学<sup>1)</sup>であった。この動きは全米の動

きでもあり、まだ米国の看護教育の場が病院付属看護学校中心であった時代、期待されたことであった。1978 年、一回生は 5 名で 4 名はペンシルバニア州近辺、1 名はカリフォルニア州からであった。当時の看護学部はニューヨーク大学からフェイガン学長が大勢の看護学者達をつれてくるまで、大学内で経済力が最低な学部であった。しかしフェイガン学長の 16 年間の学長時代に看護学部は助成金、特に NIH (National Institute of Health) の助成金を次々獲得し学内のみならず全米 1 位、2 位を示す経済力豊かな学部となり、看護研究の結果、新しい医療法などができた。それは老人施設の抑制の規定、子供の入院時における母親の病室宿泊などでそれは法案

1) 日本赤十字九州国際看護大学

となり、学内敷地にある小児病院の隣に連結させたホテルの設置により子供の親の宿泊の便宜がはかれるなど看護の影響力が示された。また女性のフェイガン学長がペンシルバニア大学の総長を1年間つとめるなど歴史的な変革を示した。テレビ放送の“Where are the nurses?”でナースの社会における役割の必要性を示し社会に看護の必要性をアピールした。こうした活動は米国における看護リーダーシップと看護師の社会的イメージを高めるモデルとなった。

ニューヨーク大学のカリキュラムは看護理論家である有名なマーサー・ロジャーズの影響で Unitary Human Being という理論がすべての教育活動、カリキュラムに組み入れられていたが、フェイガン学部長は看護のいろいろある理論、哲学的観点を自由にとり入れる Eclectic な考え方でペンシルバニア大学看護学部のカリキュラムを運営した。

2007年、サンフランシスコ大学からの新しい学部長、アファーフ・メリースのもとでフェイガン学長をたたえる16 million ドルの寄付金を集め、看護ビルディングを建設中であった。これは看護の高められたイメージを形に残そうとした結果であると考えられる。国内外情勢の変化に適応すべく看護学部は国内活動から国際人道活動への動きを強調し始め、次のように対応した。メリース学長の方針は看護における国際性を示すこと、研究と知識の奨励、ヘルスケアの政策の変化に適応、学習環境の改善、教育、研究、実践の統合、臨床看護実践の強調、学部の財源として技術、経済、スペースの資源を強化、研究、教育、実践における倫理的リーダーシップを示すことなど、University of San Francisco の成功例と経験を生かし大学の特徴を国内、地域中心のイメージから国際的に魅力ある学部に変えようとしている。看護国際部には博士号をもった海外活動経験者の助産専攻看護教官をフルタイムにおき、今後国際的ヘルスケア活動経験をカリキュラムに組み入れようとしている。国内活動としてペンシルバニア州のヘルス政策、法律に看護学部が関与し、老人ケアにおける助成金を獲得し州の老人ケア対策に乗り出している。フェイガン学長の時代も臨床看護を重要視し、Nurse Practitioner の教育を修士レベルで行っていたが、26年前になかった専門分野として現在、麻酔看護、助産看護、経済学部と組んだ看護管理、経営学などを提供している。ヘルスケアの提供に関しこ

れは麻酔医師、産科医の不足に対応することや、医療チームの調整役として看護職の管理経営の看護職が必要であることからの理由である。

博士レベルでも、臨床が強調され、臨床サービスに影響するアウトカムを研究する論文が多い。しかしここでは臨床看護博士、DNP (Doctor of Nurse Practice) のプログラムは設けていない。大学外の臨床施設、病には修士課程卒業の Nurse Practitioner が多数勤務しており、看護学生の臨床教育実践の向上に影響している。看護の臨床上の独立を維持するように大学は看護臨床教育、研究施設として老年研究センターなどを持っている。

## II ジョンス・ホプキンス大学

ジョンス・ホプキンス大学<sup>2)</sup>の看護学部の特徴は総合大学の公衆衛生で有名な公衆衛生学部が隣の敷地にあるので看護学部はその影響をうけている。当大学は歴史的に公衆衛生活動を海外で盛んに行っておりフィールドを持ち、現地に担当教員がいる。看護学部の学部長、マーサー・ヒルも公衆衛生、国際活動などでリーダーシップをとっている。学部として国際活動上、教育、研究、実践などの面で海外と多数の有料コンサルテーション、ビデオカンファランス、短期の有料学内見学施設実習プログラムを提供している。修士のレベルでは Joint Degree として公衆衛生学部と連携し公衆衛生看護学(合計36単位)がある。この大学では国内のテロ事件の可能性にそなえて災害看護学を提供し、放射線災害、生物学的テロにたいする専攻(合計39単位)がある。新しい動きとして博士課程に臨床看護博士課程、DNP (Doctor of Nurse Practice) を取り入れることになっている。これは米国の新しい動きで2006年10月に米国看護学術学会が投票し決定したことで、すでに140校以上の大学がDNPプログラムを設置している。これは米国の看護界の最新の動きである。1965年から始まり繁栄している NP, Nurse Practitioner は修士レベルであったが、さらに博士レベルの教育として、薬学、栄養学など他の医療関係の学問と同様、臨床レベルの博士課程として独立させようとしている。米国の約3割の大学が賛同し始めている。

ジョンス・ホプキンス大学では大学院も学生数が多く1学年の大学院生数は80-120名、競争が激しい。夏季授業で忙しいのは公衆衛生学部と看護学部

である。教師の数もフルタイムだけでも 71 名、パートタイムも 120 名いるが、それでも資格のある教官数がたりないと説明があった。看護大学教員の高齢化がはじまって、若手の教員の確保、維持が問題となっている。修士号、博士号などのある看護師は臨床における仕事のほうが、収入が良いので、臨床看護の場に資格のある看護師が流れていく。しかし、この傾向があるために、米国の臨床看護のレベルはあがっているのではないかと考える。臨床実習はこうした修士課程卒業の Nurse Practitioner が実習指導、Preceptor をしているので臨床上の学生の教育成果をあげている。

看護の教科書は、日本の医学部レベルの教科書があり、解剖生理学、病態生理学、薬学、各看護専門分野教科書が看護師により執筆、出版され使用されている。1 冊の教科書の値段が 1 万円もするのが何冊もあるということなど看護を大学で勉強するコストは高くなっている。学費だけでも 1 単位約 1300 ドル、卒業までに 120 単位としても 15 万ドル以上かかる。これは 50 年前の病院付属看護学校教育<sup>3)</sup>の学生実習を看護労働とし、看護教育の授業料が無料またはごくわずかであった時代とはことなる。看護が大学教育として、学生が学費を払って教育を受けるシステムになったことで、教育の投資をしなければ、教育が受けられなくなった。また大学標準入学試験 (SAT、Scholastic Achievement Test) で受かった者だけが入学するようになったことで他学部との比較が出来るようになった。教育に投資するならば、卒業後、収入も良い仕事でなければ学生を集めることは難しい。それで大学も看護の職場も優秀な卒業生を集めるために懸命に努力工夫をしている。カリキュラムはしばしば変わるし、看護職の分野、専門性の数も増える。一方、個人投資ができなくても優秀な学生には奨学金やローンが可能である。看護を第 2 の職業として選ぶ他分野からの学生も多く、米国の学生の年齢には幅があり、学生に合わせたプログラムが用意されている。例えば RN から BSN プログラムなど、学位を持たない正看護師用のプログラムとか、他学部からの学生用のプログラムや短縮された修士プログラムなど。

看護教育は大学制にと移行しているが国内で時差があるほど広い国なので、不便なところにはまだ病院付属看護学校も存在する。大学教育を受けていない看護師のためにジョーンズ、ホプキンスでは RN

To MSN (登録看護師から看護科学修士) という特別プログラムなども設け、それを終了させ修士課程、Nurse Practitioner のプログラムに入学させる。フルタイムの学生のほかにパートタイムの学生用のプログラムもある。

### III エモリー大学

エモリー大学、看護学部<sup>4)</sup>は米国で一番国際看護活動、教育、研究面において経済的に余裕があり人道性を強化した学部であるといえる。3 日間の訪問で 1 時間ごとの会談など合計 13 名の各専門分野の教授、管理者と話し合った。リリアン、カーター、国際看護センターというセンターは前大統領のカーター氏が寄贈したため、このセンターを看護学部が教育、研究、サービスに使い、プログラム、プロジェクトを数多くもち国際人道活動を発展させている。ここでは事務管理職員は充実しており、看護教員の人道活動が活発である。人道活動はエチオピア、アフリカ、カリビアン、南アメリカなどの国外のみにとどまらず、国内の移民労働者 (主としてメキシコ系移民)、ホームレス、10 代の性行動問題などの社会的健康問題にも取り組んでいる。これらは Service learning<sup>5)</sup>と呼ばれ、人道活動、特に健康問題のプロジェクトに学生が参加することで、ヘルスケアの問題にたいする看護活動を体験できるプログラムで、参加は有料である。

エモリー大学も看護臨床教育に重点をおいていることは他の大学と変わらない。医師との専門職間の問題が起りにくいのは、看護は哲学として人道をまもるという行為を伝統的に守っており、貧困階級、法的責任を持たない子供、受刑者、恵まれない国内外の異民族、DV (Domestic violence) による女性の被害者に対する援助などの人道的、社会的問題に関連するヘルスケアに力を入れていることで、市民、政府の関心、支援、賛同を得ているからであろう。また米国ではキリスト教教会が人の日常生活に影響を与え、ボランティアヘルスケア活動として組織的救済活動を行い、看護師が市民として地域、及び海外で人道活動を行うことがあるからである。

大学は南部にあるので、ニューヨークなどの北部とは異なり、地域の人には病院出産というより、助産師による出産が多いので、ここでは助産師教育が強化され、助産のプログラムは国内でトップ 10 に入る。助産は修士課程で antepartum, intrapartum,

postpartum, family planning と well-women's health care (関連ある観点のみ) など2年間のコースで、終了後アメリカ看護助産師協会の認定試験を受ける。Nurse Practitioner のコースには理論と研究、病態生理、ヘルスアセスメント、薬学、専門看護分野特論、倫理、リーダーシップ、ヘルス政策の科目を核として他の大学と同様に臨床教育の基礎、理論、ヘルス政策の科目を設けている。成人看護学は内科外科看護学として教育を行っている。これは看護の medical integration の動向に影響されたものであろう。40年前にも内科外科看護と呼ばれた科目が成人看護と命名され、のちに Nurse Practitioner ができてからまた内科外科看護と呼ばれるようになった。老年看護は成人看護から独立して教育されている。老人看護実践では地域の慢性看護と病院の急性看護に分科し教育実践される。災害看護に関しては隣接して CDC(Center for Disease Control)があり、専門家による災害に関する情報収集、講義などを可能にしている。しかし国内の災害の対応は距離的に便利な赤十字やボランティアが救援活動をしているので、アトランタのエモリー大学からの災害救援活動の実践はそれほどみられない。日本では自然災害が多いため日本の方がエモリー大学のそれよりも災害看護教育は進んでいるのではないかというのが災害看護管理の教授の意見である。学内の敷地にある老人関係施設、老人病院施設は古い建物であるがその運営に関してはナース、理学療法士、音楽療法士、栄養士などがチームケアを行っており、医師は施設に定期的にししかこない。隣接して痴呆の診療外来と看護研究棟があり、アルツハイマーの研究に臨床データを使い研究している看護研究者がいる。そこには心理学者もおり外来精密心理検査をしている。この研究棟に院生の臨床指導をしている新任の看護臨床博士も卒業後の研究としてアルツハイマーの時期的症状の分類などの共同研究をしようとしている。

看護師の国際人道活動を大学教育にどう反映させるかは大学の課題である。単位に関係ない文化交流はアジアにおいては韓国のヨンセー大学がある。エモリー大学でも学部の単位に組み入れられているのは言語の通用するカナダとの臨床実習の互換で、大学院のレベルではIndependent studyとして個々に取り組みされている。大学の国際活動の評価としてCapstone<sup>6)</sup>と呼ばれるアウトカムの評価が行われて

いる。例として、国際活動に参加した学生が学術的な研究として、海外における自分の体験を記述し、現地でのインタビューなどのデータをもとに考察し、看護介入活動を書いたものなどが評価に使われている。

#### IV まとめ、提言

以上3校の訪問調査から、学術的国際交流に関してはどの大学も可能性はあるが、言語、期間、経費、日本赤十字九州国際看護大学の国際交流、派遣、受け入れ体制について考慮が必要である。短期の文化交流の派遣などは有料で数多くあるので、長期の学術交流を将来の目標とし、短期の可能な派遣プログラムをとりいれることが望ましい。

訪問した3大学は国のヘルス政策に対応する努力をし、独自の改革を試みている。看護の臨床レベルを博士課程レベルに高めること、看護教育のGlobal化<sup>7)</sup>を学術プログラムにとりいれることを進めている。我が大学の国際人道活動を看護大学教育にとりいれるための研究と研究成果が必要と考えられる。

受付	2007. 9. 21
採用	2008. 3. 19

#### 文献

- 1) Baiada M: Findings, Strategic Plan. A Publication for Penn Nursing, Alumni and Friends, 8-9, Spring, 2006.
- 2) Johns Hopkins University, School of Nursing, Baccalaureate and Graduate Programs, 2006-2007.
- 3) ケイコ イマイ キシ：看護学概論 An Introduction to Nursing. pp128-136、東京、放送大学教育振興会、1997.
- 4) Emory University: Master's of Science in Nursing, Application. pp1-13, Atlanta, Nell Hodgson Woodruff School of Nursing, 2006-2007.
- 5) Kun K: Service Learning. pp1-14, Atlanta, Lillian Carter Center for International Nursing Suite, 2007/09/21.
- 6) Flood LS: Using a Capstone cultural diversity Paper for Program outcomes Evaluation. Nursing Education Perspectives, 28(3): 130-134, 2007.
- 7) Carlton KH, Ryan M, Ali NS, Kelsy B: Integration of Global Health Concepts in Nursing Curricula: A National Study, 28(3): 124-127, 2007.

## Case Study of the Three Nursing Universities in U.S.A.

Kishi Keiko Imai, DNSc<sup>1)</sup>

The purpose of this case study is to describe each uniqueness of the three schools: the University of Pennsylvania, Johns Hopkins University, and the Emory University. Three schools were selected because they were known for their Global Health activities which matched with the philosophy of the Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing.

The results of this case study report may be used in consideration for starting International exchange program between Japan and USA collegiate school of nursing. The method applied for the study were to collect data through site observation, discussion with faculty members and students, and literature review. Case study period was from August 4 to September 6, 2007. The results of the study were as following: All three schools were well prepared in accepting international exchange programs. The University of Pennsylvania was moving towards global nursing leadership activities and integrating medicine and nursing in curriculum.

Johns Hopkins University was already globally active in Public Health and nationally preparing nursing education for disaster prepared nurses in the case of terrorists' attack. The Emory University was globally active especially in humanity and global health. It will be the future project for the Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing to research our potentials in advancing International exchange program as school goals.

**Key words: Health Policy in USA, Nursing Education in USA, Private University,  
Nurse Practitioner, Clinical Nurse Specialist**

---

1) The Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing